

会 報

第 6 号

目 次

1. 役員会	1
2. 役員名簿	4
3. 顧問名簿	4
4. 各研究委員会最近の活動状況	6
5. 講演会	8
6. 各研究委員会研究委員名簿	9
7. 各研究委員会賛助会員名簿	12
8. 本会規約	13
9. 研究委員会運営要領	13
10. 事務局在庫資料の紹介	14
11. 新会員の募集	14

昭和 42 年 7 月

北海道土木技術会

役員会

1. 本会役員の更迭と会活動運営 対策臨時役員会

39. 3. 23 於札幌市民会館

出席

会長 真井耕象, 副会長 伊福部宗夫, 小崎弘郎
幹事長 古谷浩三, 顧問 横道英雄, 板倉忠三
幹事 菅原照雄(北大), 丹保憲仁(北大), 林正道(土
試), 藤田嘉夫(北大), 西堀忠信(土試), 及川
懿智男(室市), 山本清助(事務局)

議事

1. 会の事業経過と会計(監査を含む)報告……古谷
幹事長
2. 各研究委員会の事業と会計報告
 - 1) PC研究委員会……藤田幹事
 - 2) 異形鉄筋研究委員会……同
 - 3) 瀝正合材配合研究委員会……菅原幹事
3. 役員の更迭選任
 - 1) 会長真井耕象氏が苫小牧工業高等専門学校に転
任のため辞意表明, 後任に高橋敏五郎氏(北海道
建設業信用保証KK社長)を推挙し真井会長より
本人に直接お願いすること。
 - 2) 副会長小崎弘郎氏より一身上の都合の故をもっ
て辞意表明, 後任に古谷幹事長を, また幹事長後
任に河野文弘氏(土木試験所土質研究室長)をそ
れぞれ推挙した。
(以上の役員推挙選任は, 本会規約によれば総会
の承認を要するものであるが, 会務進行上客観的
状況判断により便宜会員に公表して総会に替えさ
せていただくことになったので遅ればせながらご
諒承願いたい)。
4. 研究委員会の新設(改組)
 - 1) コンクリート研究委員会
在来のPCと異形の各委員会を発展的に統合し
内部に専門の小委員会を設けて研究活動をする。
 - 2) 鋼道路橋研究委員会の新設
 - 3) 寒地瀝正合材の記合研究委員会は一応その成果
を終えたので名称を改めて再出発する。

(以上の促進充実をはかるため次回役員会までそ
れぞれ具体案を持ち寄ることになった)。

5. 真井会長退任に際し, 前例によりその功を多とし
本会よりいささか謝意を表するため記念品を贈るこ
ととなった。

(ちなみに同氏より本会会員各位に対し丁寧なる謝
辞がよせられました。)

2. 会務運営役員会(第1回)

39. 12. 9 於雪印パーラー

出席(順不同)

会長 高橋敏五郎, 副会長 伊福部宗夫, 古谷浩三
幹事長 河野文弘, 幹事 菅原照雄(北大), 武山広志
(道路工業), 北村幸治(開発局), 阿部洋七郎(コンサル
タント) 青木 弘(同) 平尾 晋(土試), 外崎 忍(開
発局), 工藤和雄(道), 佐々木晴美(土試), 林 正道
(土試, ほか事務局主事 山本清助(土試)

顧問 巻下乙四郎

1. 新会長挨拶(要旨)

北海道に帰って早々に前会長真井氏より就任の話があ
りふたたびこの会に関係をもつことになった。この会は
創立当初から関与しているが, 会の特徴とするところは,
各界からフリーの立場で集って研究討議ができることで
ある。従来まで相当の成果を挙げてきたことはご承知の
とおりでである。最近はやや停滞気味に見受けられ, 講演
会などが催されても, どこかのきも入りのものも多く,
本会独自の自主性が足りないうらみがある。できれば今
後, 会運営の正常化をはかりたく願っているところであ
るが, 最近その機運が盛り上がってきたことはよるこば
しい。

本日は, 発起人的な立場で従来にも増して活動ができ
と思うので若い皆様の尊い意欲を結集して会の事業を企
画しすすめてほしく, あらためてお願いする次第であり
ます。

2. 経過報告……河野幹事長より前回の役員会の結果説
明。

3. 各研究委員会の運営方針とメンバーについて

- 1) コンクリート研究委員会……林幹事説明。
従来のPCと異形は別々の委員会であったが, これを
コンクリート研究委員会として統合して研究をすすめる

機運となった。中味は細分化されるので小委員会を必要に応じてつくることになった。たまたまこの機会にあたり早速体制をととのえ研究委員会をもちたい。

皆様のご討議を願い再出発したい考えである。委員長には北大の横道先生が予定され、また委員のメンバーは前のメンバーと似たものとなるであろうが、まだできていない。

以上に対する主なる意見として……

○最近の問題は、異形の研究の中でツイストバーの設計施工の指針が全国的のものがいないので、ほかのものも含めたものを将来の研究対象とすること。

○外部依頼の講演会に PC の全道的問題もとり入れること。

○現場施工上の問題点として、学問的でなく現場の直接従事者に対する実地的指導の問題も必要とされる。

○現場から盛り上げて直結したコンクリートの懇談会などが適当と思われ、底辺の広い技術現場に密着した技術の幅の広いものを取り入れる要がある。

○学問的に立脚する土木学会とは別な特性を発揮させること。

2) 橋梁研究委員会……外崎幹事説明。

鋼橋研究委員会をつくる話が盛り上げてきている。構成のメンバーとして開発局、道、コンサルタント、業界から鋼橋のメーカー、同出張所などが参加したい意向がある。資金面もよいので発足できる段階にある。まだきまったテーマはないが発足できる準備はできている。問題として考えられるものとして

(イ) 寒地における特殊なもの (ロ) 本州における珍しい橋……その他を取り上げて発足する。

以上に対する意見として……

○可成り興味ある問題でないとお店休業になるおそれがある。特に道内に具体性のあるものが必要である。

○寒地の問題については外国の文献など調べて寒地鋼橋を取り上げることになり可成り意欲的テーマが出されることが予想される。

3) 道路研究委員会……菅原幹事説明。

従来の反省に対する今後の具体化が出てきたので、近く関係者が集って再編成をする。取上げるものとして、路盤、施工全部を考える必要があるに相当に広い範囲となるが、当面する問題は、舗装の基準を変えるときであるので、それを discussion してゆく。中に細分化して小委員会もできる可能性もある。

以上に対する主なる意見として……

○39年の4月から5月までには集まってという話もあった(武山)が多忙に取まぎれて実現できなかった。官、学民相互間に小さな問題もあるがそれは解決されつつ

ある。11月から3月頃までなら民間としても研究活動に参加できる。

○昔以上のものを再発足できる機会である。特に高橋会長がきたので色々な問題を懇談の中で取り上げる。単独な問題をあげないでバラティイにとんだものでゆく。

4) クイ基礎研究委員会……外崎幹事説明。

最近注目されてきた鋼杭関係の研究がすすんでいない。北海道は泥炭の問題につれて研究開発の問題がある。研究資料があるので標準施工の研究をやる。この準備会は近いうちに開くことになっている。リーダーに北大の北郷先生が諒承された。また、コンクリート杭を入れるかどうか……。場所打ちコンクリート杭などの問題もある。北海道の特殊性からみて泥炭地施工の設計上の問題も生ずる。クイ打ち標準の問題は全国的同じ立場で研究をすすめる。

3. 会務運営役員会 (第2回)

39. 12. 25 於市民会館

出席 (順不同)

会長 高橋敏五郎、副会長 伊福部宗夫、古谷浩三、幹事長 河野文弘、幹事 西堀忠信(土試)、外崎 忍(土試)、川上忠男(日本道路)、渡辺 昇(北大)、工藤和雄(道)、林 正道(土試)、藤田嘉夫(北大)、平尾晋(土試)、北村幸治(開発局)、青木 弘(コンサルタント)、菅原照雄(北大)、土岐祥介(同)、丹保憲仁(同) 顧問 卷下乙四郎(日道)、北郷 繁(北大)、今 俊三(同)、板倉忠三(同)、横道英雄(同)、宮川 勇(土試)、能町純雄(室工大) (事務局主事 山本清助)

○前回協議結果により各委員会より運営の具体案がつぎのとおり出され、いよいよ本格的な研究活動に入ることとなった。

1. コンクリート研究委員会……

委員長 横道英雄(北大)、委員予定 15名

1) 研究事項

(イ) 異形鉄筋・PC急速施工・アルミナセメント・接着剤・寒中コンクリート・コンクリート技術の調査研究・情報交換と普及。

(ロ) 設計施工指針等の作成。

2) 小委員会の新設

(1) 異形鉄筋研究委員会

(イ) 異形鉄筋を用いた鉄筋コンクリートの設計施工指針の作成。

(ロ) 鉄筋のボンド試験の標準化。

(2) PC研究委員会

(イ) PCグラウト注入施工指針の改正。

(ロ) PC橋台帳の作成。

2. 鋼道路橋研究委員会

委員長 今 俊三 (北大) 委員予定 24 名

1) 研究事項

- | | |
|--------------|--------------|
| (イ) 文献の収集と編集 | (ロ) 設計仕様の検討 |
| (ハ) 写真の編集 | (ニ) 設計図集と計算例 |
| (ホ) 電算の活用 | (ヘ) 橋梁計画の検討 |
| (ト) 講習会 | (チ) 見学会 |
| (リ) 新理論の普及 | (ス) 新工法の PR |

2) 小委員会の新設

- (1) 文献小委員会: 委員長渡辺昇ほか委員 5 名
- (2) 設計仕様小委員会: 委員長小林和郎ほか委員 6 名。

3. 道路研究委員会……委員長板倉忠三 (北大)

1) 小委員会の新設

- (1) 表層に関する小委員会: 委員長板倉忠三ほか委員 27 名。
- (2) 路盤に関する小委員会: 委員長板倉忠三ほか委員 30 名。

4. クイ基礎研究委員会……

委員長 北郷 繁 (北大) ほか委員 40 名。

5. その他

- 1) 本会の顧問および幹事の確認……次頁名簿のとおり。
- 2) 会の運営について

4. 会務運営役員会 (第 3 回)

40. 1. 18 於札幌ホテル

出席

会長 高橋敏五郎, 副会長 伊福部宗夫, 副会長 古谷浩三, 幹事長 河野文弘, 顧問 横道英雄, 巻下乙四郎
(ほか事務局主事 山本清助)

議事

1. 幹事の定数と任務の検討。
2. 研究委員会運営要領の設定……別項のとおり決定。
3. 規約の改正について……別項のとおり審議。急務を要する点もあるので次回総会開催まで便宜上公示して暫定施行することになった。

役員名簿

(S42年7月現在)

会長 高橋 敏五郎 北海道建設業信用保証(株)社長
 副会長 伊福部 宗夫 北海学園大学教授
 " 古谷 浩三 開発局土木試験所長
 幹事長 河野 文弘 " " 土質研究室長
 幹事 江利川 喜一 " " 河川研究室副
 (順不同) 林 正道 " " 第2研究部長
 室長
 佐々木 晴美 " " 土質研究室副
 室長
 星野 寔 " " 地質研究室長
 村木 義男 " " 応用理化学研
 究室長
 山野 隆康 " " 特殊土壌開発
 研究室副室長
 西堀 忠信 " " 構造研究室副
 室長
 武山 広志 道路工業(株)取締役工務部長
 仲村 力 日本高圧コンクリート(株)工務課
 長
 後藤 誠也 日本橋梁(株)札幌営業所長
 林 敏明 三井建設(株)支店長代理兼土木課
 長
 川上 忠男 日本道路(株)北海道支店業務課長
 酒井 賢一 北海道電力(株)土木部工事課設計
 係長
 紙谷 卓二 道、土木部都市計画課主任技師
 鎌田 哲夫 札幌市総務局オリンピック準備
 室課長職
 阿部 洋七郎 北海道開発コンサルタント(株)橋
 梁課主任技師
 青木 弘 " "
 佐藤 幸男 日本道路公団、札幌道路工事事
 務所長
 北村 幸治 開発局建設部道路建設課開発専
 門官
 小田代 弘 " 河川工事課課長補
 佐
 小浜 実 " 石狩川開発建設部豊平峡
 ダム建設事務所長
 藤田 嘉夫 北大工学部教授
 土岐 祥介 " 助教授
 菅原 照雄 " 教授
 丹保 憲仁 " 助教授
 五十嵐日出夫 " "
 神山 桂一 " "
 芳村 仁 " "
 渡辺 昇 " 教授
 工藤 和雄 道、土木部道路課技術吏員

本会顧問名簿 (五十音順)

(S42年7月現在)

安芸 真孝 俄地崎組副社長
 阿部 与 北海道大学工学部長
 相川 実 道、土木部港湾課長
 赤井 醇 札幌市水道局長
 板倉 忠三 北海道大学工学部教授
 市瀬 勲 開発局、石狩川開発建設部長
 小野 修 " 建設部道路計画課長
 音羽 敬三 " " 河川計画課長
 小野 中道、室蘭土木現業所長
 小野 早苗 三井建設(株)札幌支店長
 大橋 康次 北海道電力(株)常務取締役
 大間 春彦 開発局農業水産部水産課長
 小川 譲二 富士セメント(株)顧問
 尾崎 晃 北海道大学工学部教授
 岡田 光夫 札幌市建設局土木部長
 川合 肇 清水建設(株)北海道支店土木課長
 鎌田 哲 開発局、小樽開発建設部長
 刈田 延夫 旭川市建設部長
 岸 力 北海道大学工学部教授
 北郷 繁 " "
 栗林 隆 開発局港湾部長
 黒田 正輝 道、旭川土木現業所長
 黒地 政美 札幌市建設局長
 今 俊三 東海大学教養部長
 小山 道義 開発局土木試験所第1研究部長
 小寺 一卓 道、土木部道路課長
 小竹 豊 国鉄、札幌工事局長
 古泉 栄一 国鉄道支社調査役
 斎藤 静脩 北海道開発コンサルタント(株)取締役会長
 坂口 武 開発局港湾部港湾計画課長
 佐々木 欣一 " 農業水産部開拓課長
 佐渡 博夫 " 旭川開発建設部長
 佐藤 拓次郎 開発局、土木試験所第3研究部長
 斎藤 薫 岩田建設(株)専務取締役
 佐々木 喬樹 伊藤組土建(株)常務取締役
 酒井 忠明 北海道大学工学部教授
 境 隆雄 室蘭工業大学教授
 沢田 寛 札幌防衛施設局建設部長
 城塚 孝雄 鹿島建設(株)札幌支店長
 白石 勝夫 大成建設(株)札幌支店長
 勝二 明 開発局札幌開発建設部篠津地域開発事務
 所長
 住吉 勇三 開発局農業水産部長
 菅原 敏夫 道、土木部砂防災害課長

田中 一郎	開発局港湾部港湾建設課長	中村 良夫	開発局建設部河川工事課長
鷹田 吉憲	" 室蘭開発建設部長	中村 謙平	北海道電力(株)土木部長
田中 彦敏	北海道ピー・エス・コンクリート(株)札幌営業所長	中村 和太吉	開発局建設部道路建設課長
田中 節次	鉄建建設(株)札幌支店長	能町 純雄	室蘭工業大学教授
横田 光彦	日本鉄道建設公団札幌支社長	羽鳥 光夫	道土木部都市計画課長
高瀬 正	大成建設(株)理事	本間 四郎	" 河川課長
高木 陽一	新日本土木(株)札幌支店長	卷下 乙四郎	日本道路(株)北海道支店長
田野崎 罔夫	開発局農業水産部計画課長	前口 正蔵	北海道電力(株)土木部次長
田卷 春造	小樽市土木部指導技師長	松木 憲司	室蘭工業大学教授
竹井 清一	室蘭市水道部長	町田 利武	開発局建設部長
高内 友海	" 港湾部長	宮城 好弘	" 農業水産部土地改良課長
土屋 忠	日本舗道(株)札幌支店長	峯村 芳郎	札幌鉄道管理局施設部長
土谷 実	飛鳥建設(株)札幌駐在顧問	森 勝平	開発局札幌開発建設部長
津田 賢次	北海道開発コンサルタント(株)取締役社長	山本 茂	北海道大学農学部教授
寺島 重雄	北海道大学工学部教授	山岡 勲	北海道大学工学部教授
当銀 清一	札建工業(株)土木部長	山田 外記	道, 小樽土木現業所長
長沼 典郷	(株)大林組札幌支店長	遊佐 志治磨	北海道開発局長
中津海 慎二	札建工業(株)取締役社長	横田 清	北海道機械開発(株)常務取締役
中田 勝一	萩原建設工業(株)札幌支店長	吉川 宥直	北海道軌道施設工業(株)社長
中村 稔	道, 土木部長	横道 英雄	北海道大学工学部教授

各研究委員会最近の活動状況

1. プレストレストコンクリート研究委員会

昭和31年6月発足。40年4月、第42回委員会を最後に、新設されたコンクリート研究委員会に吸収され、PC小委員会として研究活動をつづけることになった。この間の研究成果はつぎのとおり。

- 1) 研究資料第11号：プレストレストコンクリート用グラウト注入に関するドイツ規格について（昭32.2.刊行）
- 2) “ 第12号：プレストレストコンクリート用グラウト注入施工指針（昭32.3.刊行）
- 3) “ 第17号：PCグラウト注入施工指針（昭34年2月改正）・（昭34.2.刊行）
- 4) “ “ 別冊：ドイツにおけるPCグラウト注入の施工に関する最近の研究について（昭34.2）
- 5) “ 第18号：PCグラウト注入施工指針（昭36.4.改正刊行）
- 6) “ 第19号：プレストレストコンクリートの新技術に関する講演会（37年1月19日）講演集（昭37.3.刊行）

以上のほかPC橋台帳のための資料の蒐集を行なったが、刊行までに至らず新設のコンクリート研究委員会に引継いだ。

2. 異形鉄筋研究委員会

昭和37年6月に発足し、同40年4月の第10回委員会を最後に新設されたコンクリート研究委員会に吸収され、異形鉄筋小委員会として研究活動をつづけることになった。この間の成果はつぎのとおり。

○研究資料第20号：ねじり棒鋼を用いた鉄筋コンクリートの設計および施工指針（案）（昭37.7.刊行）

このほか上記指針の改定を審議中であつたが刊行まで至らず、新設のコンクリート研究委員会に引継いだ。

3. コンクリート研究委員会

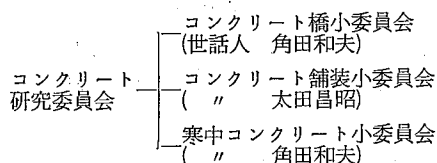
この委員会は、昭和40年5月に、それまで活発な研究活動を続けてきた“プレストレストコンクリート研究委員会”と“異形鉄筋研究委員会”とを発展的に解消統合しこれらを小委員会として引続き研究活動を行なうほか、必要に応じ他の小委員会を設置することを目標に発足したものである。

コンクリート研究委員会 — PC小委員会
— 異形鉄筋小委員会

40年度の研究活動

コンクリート研研委員会	2回
”	見学会 2回
”	幹事会 3回

41年度第1回の研究委員会においてPC小委員会と異形鉄筋小委員会とを合併してこれを“コンクリート橋小委員会”とし、新たに“コンクリート舗装小委員会”、“寒中コンクリート小委員会”が設置され研究活動を行なうことになった。



41年度の研究活動

コンクリート研究委員会	1回
”	見学会 2回
”	幹事会 2回

コンクリート研究委員会発足後の成果は下記のとおりである。

- 1) 研究資料第21号 異形鉄筋のFYカプラ継手に関する実験（昭40.8）
- 2) “ 第22号 異形棒鋼を用いた鉄筋コンクリートの設計および施工指針（昭40.12）
- 3) “ 第23号 異形鉄筋使用上の問題点について（昭42.3）
- 4) PC橋資料（昭和37年度までに竣工した全道ポストテンション方式PC橋全橋について、事業主体、施工会社、着工竣工年月、構造形式、PC工法、その他構造細部を取りまとめたもので側面図、標準横断面図をも付加した画期的なものである。）（昭41.8）

4. 鋼道路橋研究委員会

この委員会は40年発足以来、北大工学部（橋梁研究室）教授 俊三委員長のもとに各研究課題ごとに小委員会を設けつぎのとおり活動を行なってきた。

昭和41年度は……

- 1) 文献小委員会……委員長渡辺 昇（北大）
つぎの10種の文献を刊行し会員に配付した。
 - (1) 高張力ボルトの暫定指針（ドイツ鋼構造委員会）
 - (2) 薄肉断面の桁の曲げねじり（Stüssi）
 - (3) 閉ぢ断面合成桁のねじりについて（Steinbach）
 - (4) 曲げおよび曲げねじりの系統的表示
(Bornscheuer)

- (5) 曲げと曲げねじりの解の相似性 (Lindenberger)
- (6) 任意の空間荷重による円弧曲線桁の微分方程式とその解法 (Kreisel)
- (7) 鋼構造の座屈規定 (DIN 4114)
- (8) 曲げねじりを考慮した曲線桁の計算 (Dabrowski)

3の翻訳 4の翻訳

2) 設計仕様小委員会……委員長角田和夫
この委員会を6回開きつぎの内容について草案を作成審議した。

「北海道における鋼道路橋の設計および施工指針」
第1章 設計条件, 第2章 主な型式の構造計算, 第3章 施工, 第4章 設計図書の作成
SMSOY 鋼材の使用基準をきめるため, 各ロールメーカーから提供をうけた試験片を用い, 土木試験所で, シャルピー衝撃値を実施している。

3) 鋼橋写真集の編さん小委員会……委員長角田和夫
最近10年間に完成した北海道における代表的な鋼橋および歴史的な鋼橋を選んで編さんする予定でつぎの作業を行なった。

- ✓(1) 写真集にのせる橋梁名と編さん要領の打合せ。
- ✓(2) 各開発建設部および土木現業所に対し, 写真, 一般図, 資料, 調査表の提出を依頼した。
- ✓(3) 写真と図面は集まったが, 写真集にのせるような好いものが少なかったので再提出を依頼した。去る11月19日を期限としてこれを依頼したが, その後集りが悪く現在に至っている。

4) 設計図書編さん小委員会……委員長渡辺 昇
この委員会を2回開き, 文献から該当の設計図を選んで分類を行なった。

5) 講習, 講演小委員会……委員長大島 久
委員会を2回開き, つぎの講演(本部と共催)を行なった。

(開催日)	(講師)	(協賛者)	(演 題)
41. 12. 2	今俊三氏 ほか1氏	住友金属	別項所載講演会10項
42. 1. 23	ほか4氏	川崎製鉄	" 12 "
42. 2. 9	渡辺昇氏 ほか2氏	東京ファブリック 日本オイレス工業	" 13 "
42. 2. 17	ほか2氏	八幡製鉄	" 14 "
42. 3. 10	今俊三氏 ほか3氏	日本鋼管	" 15 "

- 6) 42年度総会開催 42. 4. 19 於自治会館
- (1) 事業報告と会計報告 (2) 規約の審議
- (3) 委員長と副委員長の選出
委員長今 俊三氏の辞任に伴ない後任に北大教

授渡辺 昇氏が, また副委員長に開発局平岡英明氏と同角田和夫氏が夫々選出された。

- (4) 各委員の承認(別項名簿のとおり)
- (5) 42年度事業計画ならびに予算の審議
従来の小委員会はそのまま継続, 新たに振動小委員会を設けることになった。この委員長に北大芳村 仁氏が選ばれた。

5. 道路研究委員会

……委員長板倉忠三氏

特殊アスファルトの研究問題を主題として, その後活動の盛り上りをみつつ個々のグループ毎に, 具体的にすすめられている。その一つとして舗装磨損の問題解明に対する試験方法を, 土木試験所と北大共同で行なっている。

土木試験所の大型磨損試験機について, トペカに対する試験の研究をすすめているが, これは42年3月に一応の研究結果を得たが, なお研究を続行中である。

これに関連して, 札幌開建と北大で一部のメーカーが加わって特殊アスファルトならびにゴムアスファルトに関する研究をここ2年位本格的に取り組んでいる。

その他, 新工法の開発に対してはまだ公表の段階でないけれども多くの研究が, 官, 学, 民の協同で行なわれている。

その他の活動として(1) エポキシ樹脂に関する講演と映画会(別項所載講演会第5項)(2) 道路建設業協会会長森 豊吉氏を囲む「道路技術に関する」座談会を行なった。

6. くい基礎研究委員会

……委員長北郷 繁氏

近年, くい基礎の普及には著しいものがある。とくに, くい基礎は施工面, 経済面などといった点で他の基礎型式には見られない長所を保持しているため, 重要構造物の基礎型式として各所で採用されてきた。

しかし, そのくい基礎の支持機構については, いまだに未解決な事柄が多く, さらに軟弱地盤が広く分布している北海道の地盤状況をあわせて考えるとき, 設計, 施工に際して多大の労苦をとまうことが普通となっている。

本委員会は, それらの諸問題を検討し討論するために発足したわけである。委員会は北海道大学工学部の北郷教授を委員長として, 官公庁, 民間からの40名の関係者から構成されており, さしあたり, クイの軸方向支持力について各機関から持ちよったデータをテーマとして, 種々検討を加えることを足がかりに出発することになった。

以上のようなことで第1回目の会合が持たれたのは、昭和40年1月29日のことである。会場を北海道電力㈱の会議室として、最初に幹事から当委員会に関する各種報告がなされ、早速、開発局土木試験所から提出された“くい軸方向支持力の決定について”に関する討論に入った。本データ内容は、いままでに集収された現場データに基づき、数種の動力学的、静力学的支持力公式の適合性、あるいは、くいに外力が作用した場合の基盤土質に与える影響等について検討を加えたものであった。

その後、各委員の都合等により会合を定期的開催できないまでも、昭和40年2月25日(会場、北電会議室)には、新石狩大橋基礎ぐい試験結果からくい軸方向支持力の判定方法、載荷時におけるくい応力測定結果に対する諸種の検討事項等について、あるいは、同年4月16日、5月18日(会場は各々、北電会議室、札幌開発建設部会議室)には、日本鋼管㈱で実施したくいの載荷試験結果について、先端開放グイに関する管内土の先端閉鎖効果、2重鋼管を用いてグイ先端抵抗とくい周面摩擦抵抗、鋼管の実用最少限の厚さについてなど、くいの打込み試験から始まり、くい軸方向支持力に関する、あらゆる問題が提起され討論がかわされた。

これら4回の会合を通じ、くい軸方向支持力算定に際し必要となる基盤土質の諸性質、とりわけくい周面摩擦抵抗が論議の中心となる事が多かったようであるが、これらの会合をもって、くい軸方向支持力については、一応討論されつくしたものととして、その後の昭和41年3月14日(会場、観銀ビル、土木学会北海道支部会議室)に開かれた会合では、建築鋼グイ基礎設計施工基準、同解説(日本建築学会出版)を参照として、いままでの討論を集約しており、くい軸方向支持力の問題に関しては、今後1~2回の会合を開くことにより、一応の終止符を打てる段階にまで到達していると思われる。

以上が当委員会の主な活動であるが、途中昭和40年12月、および、41年1月(会場、土木試験所講堂)の2回にわたる会合を通じ、現在各機関が使用されている、道路橋下部構造設計指針、くい基礎設計篇(日本道路協会出版)について、問題点を検討し、道路小委員会の橋下部構造小委員会に代表を送り、それらの点に対する意向を打診し、本設計指針の趣旨の確認をみた。また、今年の1月(会場、土木試験所講堂)には、コンポーザーを対象とした検討会も持たれている。

この外、当委員会が主体となって、昭和41年8月と42年3月(会場、パークホテル)に、スイスのヘフリー氏やヘルシンキ大学教授のヘレネルド氏を招き、外国技術の紹介や技術の交流なども実施されており、幅の広い意義のある活動が繰り広げられている。

講演会

(40年以降)……本会主催(含研究委員会)

1. 新技術紹介と映画
 - ……(40. 1. 29) 於・道新ホール 聴講・800名
 - 1) 次の時代の橋……横道英雄(北大)
 - 2) M.D.C工法の原理と実際……吉村善臣(川鉄)
 - 3) 映画……M.D.C工法の解説
2. 高張力鋼新技術紹介と映画
 - ……(40. 2. 24) 於・道新B会議室 聴講・100名
 - 1) 橋梁における高張力鋼の経済効果
 - ……今 俊三(北大)
 - 2) 橋梁に使用される高張力鋼の材質と使用上の特性
 - ……伊藤正彦(富士鉄)
 - 3) 高張力鋼開発の展眺……金沢正午(富士鉄)
 - 4) 映画……フジハイテン
3. 新婦朝特別講演
 - ……(40. 3. 10) 於・産業会館 聴講・150名
 - 1) ソ連のコンクリート製品の製造事情
 - ……高林利秋(吉野理工)
 - 2) スライド……講演併用
4. PC新学術講演と映画
 - ……(40. 4. 16) 於・日生ビル 聴講・160名
 - 1) 海外のPC橋……フリッツ、レオンハルト博士
 - (西ドイツ)
 - 2) 映画……新レオンハルト工法
5. 新材料紹介と映画
 - ……(40. 9. 28) 於・日生ビル 聴講・180名
 - 1) 新しい建設材料としての接着剤
 - ……板倉忠三(北大)
 - 2) 建設分野のエポキシ樹脂の利用と現況
 - ……館川 裕(シエル化学)
 - 3) エポキシ樹脂の二次加工の目的
 - ……手塚藤兵衛(東都化成)
 - 4) エポキシ樹脂舗装材……松原光一(A, B, C商会)
 - 5) 寒冷地のエポキシ樹脂……草雄正寛
 - (サンユレジン)
 - 6) エポキシ樹脂床施工法……佐藤正道(日本化成)
 - 7) エポキシ樹脂の防水工法
 - ……赤川正広(ショーポンド)
 - 8) 映画……エポキシ樹脂舗装材ガードコート
6. 港湾新工法の紹介と実地見学
 - ……(40. 10. 21) 於・函館土建会館 聴講・50名
 - 1) 函館港北浜埠頭埋立工事……谷口 勝(函館市)
 - 2) コルゲートセル工法……三木広信(川鉄)
 - 3) 工事見学……北浜埠頭埋立工事

7. 舗装新材料紹介と映画

……(41. 2. 4) 於・札幌市民会館 聴講・250名

- 1) アスファルト舗装用ファイラー……菅原照雄 (北大)
- 2) ファイラー・ピチュメンを結合材とした場合のアスファルト合材の配合設計方法……小山道義 (土試)
- 3) アサノ・ファイラー……山田順治 (日本セメント)
- 4) 映画……世界の道路と都市

8. 新高張力鋼と組立式橋梁の解説と映画

……(41. 2. 23) 於・自治会館 聴講・200名

- 1) 各種格子桁の荷重分配性状……渡辺 昇 (北大)
- 2) 組立式橋梁……石黒 健 (富士鉄)
- 3) 新高張力鋼……萩野健美 (富士鉄)
- 4) 映画……高張力鋼

9. エポキシ樹脂講演

……(41. 10. 12) 於・日生ビル 聴講・100名

- 1) 建設材料としての接着剤と問題点
……渡辺 昇 (北大)
- 2) 建設用エポコート樹脂の利用現況
……館川 裕 (シエル化学)
- 3) ロードヒイテングとデッキカバー
……佐藤正道 (日本化成)
- 4) FRP 工法の防水……松本広治 (フジレジン)

10. 鋼材の JIS 改正と映画

……(41. 12. 2) 於・日生ビル 聴講・160名

- 1) SS, SM 材の JIS 改正……枝本希彦 (住金)
- 2) 高張力鋼板と耐候性鋼板……同
- 3) 橋床部に用いられる直交異方板の弾性常数
……今 俊三 (北大)
- 4) 映画……火と水と人

11. 凍上対策新技術講演

……(41. 12. 26) 於・自治会館 聴講・150名

- 1) 断熱材による凍上防止……佐川 暁 (国鉄)
- 2) 米国とカナダの道路凍上対策……関 信弘 (北大)

12. 橋梁用鋼材の特殊性

……(42. 1. 23) 於・道銀ビル 聴講・250名

- 1) 橋梁用特殊鋼……今井光雄 (川鉄)
- 2) 耐候, 耐食性鋼板とその溶接……神崎文暁 (川鉄)
- 3) 耐候, 耐食性鋼板の腐食……嶋中 浩 (川鉄)
- 4) プレハブ橋梁……和里田新平 (川鉄)
- 5) 大径間斜索吊橋の主索弾性……今 俊三 (北大)

13. 橋梁支承材の新開発

……(42. 2. 9) 於・道銀ビル 聴講・120名

- 1) 最近の橋梁計算と電子計算機のプログラミング
……渡辺 昇 (北大)
- 2) セルコン沓……福井高弥 (東京ファブリック)
- 3) オイレレススリンゲン支承
……多田 博 (日本オイレレス)

14. 最近の鋼橋材と技術

……(42. 2. 17) 於・日生ビル 聴講・150名

- 1) 最近の曲線橋の計算方法……渡辺 昇 (北大)
- 2) 耐候性鋼材 YAW-TEN の特性
……麻生 茂 (八幡製鉄)
- 3) " の溶接
……久見弘喜 (")

15. 鋼構造材の研究紹介と映画

……(42. 3. 10) 於・札商ビル 聴講・100名

- 1) 最近の鋼橋……今 俊三 (北大)
- 2) 高張力鋼材と耐候性鋼材……勝江正満 (日本鋼管)
- 3) 土木構造用鉄鋼製品……斉藤正義 (日本鋼管)
- 4) 長支間三弦ゲルバー橋……三神昭五 (同)
- 5) 映画……鉄の世紀

各研究委員会研究委員名簿 (順不同)

1. コンクリート研究委員会 (◎は常任幹事○は幹事)

委員長	横 道 英 雄 (北大)
副委員長	倉 橋 力 雄 (開発局)
委 員	○新 山 千 春 (日本セメント)
"	齊 藤 直 意 (富士セメント)
"	長 島 弘 (札幌アサノ)
"	菅 田 明 男 (小野田レミコン)
"	神 村 浩 一 (富士鉄)
"	○畑 治 夫 (")
"	萩 野 福 次 (八幡製鉄)
"	蝦 名 淳 一 (日本鋼管)
"	橋 本 勝 夫 (川鉄)
"	安 川 清 一 (住金)
"	金 谷 省 吾 (神鋼)
"	高 橋 武 雄 (北海鋼機)
"	大 野 一 郎 (大成)
"	土志田 練達郎 (鹿島)
"	石 井 泰 男 (清水)
"	長 沼 典 郷 (大林)
"	吉 野 竜 男 (伊藤)
"	笠 原 篤 三 (地崎)
"	宮 永 敏 夫 (岩田)
"	沢 田 克 己 (日本高圧コン)
"	○仲 村 力 (")
"	村 田 寛 (道 P. S)
"	○上 田 滋 美 (")
"	板 垣 周 吉 (オリエンタル)
"	高 木 勇 (住友)
"	堀 田 博 (P. S)
"	高 梨 栄太郎 (日本ヒューム)

委員	尾藤三郎	(道ブロック)
"	○湊谷八雄	(道コンサル)
"	外山 敏	(開発)
"	○角田和夫	(")
"	○藤井卓	(")
"	北村幸治	(")
"	南 英二	(")
"	小山道義	(土試)
"	○林正道	(")
"	前川静男	(")
"	西本藤彦	(")
"	○大島久	(")
"	外崎忍	(")
"	西堀忠信	(")
"	○太田昌昭	(")
"	久保宏	(")
"	本間四郎	(道)
"	○小山義之	(")
"	高橋利一	(")
"	伊藤哲郎	(")
"	工藤和雄	(")
"	三浦修	(")
"	田村勝敏	(")
"	勝田義孝	(札市)
"	乙川照夫	(")
"	○江本佑橋	(国鉄)
"	藤岡義香	(")
"	重松治	(国鉄公団)
"	前口正蔵	(北電)
"	鈴木胞雄	(")
"	菅原照雄	(北大)
"	○藤田嘉夫	(")
"	松井司	(")
"	○角田与史雄	(")
"	尾崎 諷	(室大)

委員	三浦登	(函專)
"	本多祐也	(学園大)
"	○藤井卓	(開発)
"	○大島久	(")
"	○外崎忍	(")
"	西堀忠信	(")
"	井藤昭夫	(")
"	○大窪敏夫	(")
"	竹中勝好	(")
"	高橋陽一	(")
"	渡部政司	(")
"	小林豊明	(")
"	清崎晶雄	(")
"	木元喬之	(")
"	高橋沙	(")
"	三本松順一	(")
"	柳川捷夫	(")
"	辻 忠志	(")
"	関谷 強	(")
"	中宮光雄	(")
"	野口義教	(")
"	広瀬莊八郎	(")
"	西山藤彦	(")
"	○小山義之	(道)
"	○工藤和雄	(")
"	伊藤哲郎	(")
"	鵜東淑朗	(")
"	高沢昌康	(")
"	辻 宣志	(")
"	菊地康一	(")
"	大屋満雄	(")
"	広川紀之	(")
"	南 二郎	(")
"	小谷 実	(")
"	奥村惇一	(")
"	大橋宏志	(")
"	湯口啓二	(")
"	土生克一	(")
"	品川忠裕	(")
"	桜田充郎	(札市)
"	宮浦弘文	(札管林)
"	薄木征三	(北大)
"	梶 一典	(石川島)
"	坂田義隆	(滝上)
"	春日秀雄	(汽車)
"	後藤征男	(宮地)

2. 鋼道路橋研究委員会 (○は常任委員)

顧問	今俊三	(東海大)	酒井 忠明	(北大)
	能町 純雄	(室大)	中村作太郎	(")
	陶元 北海	(函專)		
委員長	渡 辺 昇	(北大)		
副委員長	平岡 英明	(開発)		
"	角田和夫	(")		
委員	芳村 仁	(北大)		
"	稼 農 知徳	(")		
"	尾崎 諷	(室大)		
"	菅原 登	(北見大)		

委員 佐藤安晴 (松尾)
 " ○後藤誠也 (日橋)
 " ○佐々木光朗 (函下)
 " 小野寺俊治 (桜田)
 " ○近藤恭司 (横河)
 " 横山二郎 (駒井)
 " 小黒弥太郎 (川田)
 " 斉藤常夫 (日立)
 " 中島総一郎 (豊綱)
 " 林良広 (三菱)
 " 佐藤一郎 (桜井)
 " 夏目昌明 (日輪)
 " 菅野秀夫 (神工)
 " 花野晴治 (北炭)
 " 出村一男 (鋼製)
 " 加賀久男 (橋崎)
 " 宮野樺太郎 (日鋼)
 " 畑治夫 (富鉄)
 " 荻野福次 (八幡)
 " ○橋本勝夫 (川鉄)
 " 安川清一 (住金)

委員 (会計監査) 白川涉 (東骨)
 " (") 山下勢二 (日管)
 " (事務局長) 湊谷八雄 (道コンサル)
 " (事務局) 阿部洋七郎 (")
 " (") ○青木弘 (")
 " (") ○長沼昭 (")
 " (") 斉藤紘 (")
 " (") 勝俣征也 (")

3. 道路研究委員会 (○は常任幹事)

委員長 板倉忠三 (北大)
 委員 ○菅原照雄 (北大)
 " ○武山広志 (道路工業)
 " 加来照俊 (北大)
 " 小野修 (開発)
 " 北村幸治 (")
 " 佐藤幸男 (道公)
 " 三浦宏 (開発)
 " 田中洋 (")
 " 松尾徹郎 (")
 " 小山道義 (")
 " 太田昌昭 (")
 " 村木義男 (")
 " 本間四郎 (道)
 " 高橋利一 (")
 " 蝦名晃郎 (")

委員 三浦修 (")
 " 勝田義孝 (市)
 " 松村享 (日本舗道)
 " 川上忠男 (日本道路)
 " 中田良孝 (道路工業)
 " 小山享 (東亜道路)
 " 和田順一 (岩田)
 " 森沢記夫 (シェル石油)
 " 大宮法和 (アジア石油)
 " ○平尾晋 (開発)
 " ○北村幸治 (")
 " 大谷光信 (")
 " 河野文弘 (")
 " 高橋毅 (")
 " 佐々木晴美 (")
 " 久保宏 (")
 " 谷口秀男 (")
 " 村田孝雄 (道)
 " 小山義之 (")
 " 阿部由栄 (")
 " 七条一昭 (")
 " 折笠七郎 (市)
 " 土屋忠 (日本舗道)
 " 卷下乙四郎 (日本道路)
 " 笠原篤三 (地崎)
 " 斉藤誠二 (大成)
 " 沖垣皓 (世紀)
 " 長沼典郷 (大林)
 " 坂入碩 (道々路)

4. クイ基礎研究委員会 (○は常任委員)

委員長 北郷繁 (北大)
 委員 ○土岐祥介 (")
 " 坂上孝幸 (学園大)
 " 小林和郎 (開発)
 " ○外崎忍 (")
 " 藤井卓 (")
 " 小西輝久 (")
 " 大窪敏夫 (")
 " 高橋沙 (")
 " 高橋陽一 (")
 " 小林豊明 (")
 " 河野文弘 (")
 " ○佐々木晴美 (")
 " 森康夫 (")
 " 蝦名晃郎 (道)
 " 工藤和雄 (")

委員 高 沢 昌 康 (〃)
 " 伊 藤 哲 夫 (〃)
 " 沢 田 彰 (道)
 " 後 藤 巖 (国鉄)
 " 岩 田 敏 雄 (〃)
 " 横 山 章 (鉄公団)
 " 松 橋 数 保 (市)
 " ○酒 井 賢 一 (北電)
 " 小 山 田 博 (〃)
 " 湯 浅 健 二 (〃)
 " 伊 藤 哲 夫 (〃)
 " 木 村 守 市 (防衛)
 " 奥 野 和 夫 (〃)
 " ○阿 部 洋 七 郎 (道コンサル)
 " 外 山 巖 (〃)
 " 高 谷 弘 (〃)
 " 相 田 清 (基礎地盤)
 " ○三 和 順 城 (不動)
 " 大 槻 守 之 助 (鋼管基礎)
 " 蝦 名 淳 一 (日本鋼管)
 " 上 田 滋 美 (道P.S)
 " 遠 峰 孝 栄 (〃)
 " ○仲 村 力 (日本高圧コン)
 " 石 垣 省 司 (〃)

伊藤組土建(株)
 (株)地崎組
 岩田建設(株)
 日本高圧コンクリート(株)
 北海道ピー・エス・コンクリート(株)
 オリエンタルコンクリート(株)
 住友建設(株)
 ピー・エス・コンクリート(株)
 日本ヒューム管(株)
 北海道土木コンクリートブロック協会
 北海道開発コンサルタント(株)

2. 鋼道路橋研究委員会賛助会員

石川島播磨重工業(株)
 滝上工業(株)
 汽車製造(株)
 (株)宮地鉄工所
 松尾橋梁(株)
 (株)東京鉄骨橋梁製作所
 日本橋梁(株)
 函館ドック(株)
 桜田機械工業(株)
 (株)横河橋梁製作所
 (株)駒井鉄工所
 川田工業(株)
 日立造船(株)
 豊平製鋼(株)
 三菱重工業(株)
 (株)桜井鉄工所
 日本車輛製造(株)
 神工業(株)
 北炭機械工業(株)
 (株)釧路製作所
 植崎造船(株)
 日本鋼管(株)
 (株)日本製鋼所
 富士製鉄(株)
 八幡製鉄(株)
 川崎製鉄(株)
 住友金属工業(株)
 北海道開発コンサルタント(株)
 大阪設計コンサルタント(株)
 東京ファブリック工業(株)

各研究委員会賛助会員名簿 (順不同)

1. コンクリート研究委員会賛助会員

日本セメント(株)
 富士セメント(株)
 アサノ生コンクリート(株)
 札幌小野田レミコン(株)
 札幌生コンクリート(株)
 富士製鉄(株)
 八幡製鉄(株)
 日本鋼管(株)
 川崎製鉄(株)
 住友金属工業(株)
 神戸製鋼(株)
 北海鋼機(株)
 大成建設(株)
 鹿島建設(株)
 清水建設(株)
 (株)大林組

北海道土木技術会規約

(註) _____ は追加条項
..... は改正条項

(名称)

第1条 本会は、北海道土木技術会と称する。

(目的)

第2条 本会は、北海道における土木事業ならびに土木技術の進展を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため民間、学界、官界の有志を結集してつぎの事業を行なう。

1. 重要な問題についての共同調査、研究、審議
2. 講演会等の開催による技術の向上および普及
3. 会員相互間の調査研究の協力とあつせん
4. 前各号のほか本会の目的を達成するために必要な事項

(地区会)

第4条 本会は、本部を札幌市におき、必要に応じ適宜の地に地区会をおくことができる。

(会員)

第5条 会員は、本会の主旨に賛成し入会金 500円 を納入した者とする。

第6条 会員は、その氏名および住所(所属)等変更のあつたときは直ちに事務局へ通知しなければならない。

2. 会員は本会が必要と認め請求するときは臨時会費を納入しなければならない。

第7条 会員は、本会の目的達成に必要な事項を幹事を通し提案することができる。

(研究委員)

第8条 会員は希望により会長の委嘱を受けて研究委員会(第17条~第19条)の委員となり研究、調査、審議に参加することができる。

(会員資格)

第9条 つぎの事項に該当する者は会員の資格を失う。

1. 本会の会員再確認の通知を受領し、必要な手続きを怠った者
2. 第6条の通知を怠ったため連絡のできない者
3. 在会希望の手続きをしないで道外に転出した者

(役員)

第10条 本会につぎの役員をおく。

会長1名、副会長2名、幹事長1名、幹事若干名 (内10名以内を常任幹事とする)

研究委員会の委員長

2. 役員の任期は1年とし再任を妨げない

(役員の任務)

第11条 会長は、本会を代表し会務を総括する。

副会長は、会長を補佐しその任務を分掌または代行する。

幹事長および幹事は、会長の指示をうけ会務を処理する。

(顧問)

第12条 本会の運営に助言を与えるため会長の委嘱により顧問をおくことができる。

(事務局)

第13条 本会の事務を処理するため事務局をおく。

(総会)

第14条 総会は毎年1回これを開く。

第15条 つぎの事項は、総会において承認をうけなければならない。

1. 会務ならびに会計報告
2. 会長、副会長の選出

(幹事長等の委嘱)

第16条 幹事長、幹事および事務局主事は会長が委嘱する。

(研究委員会)

第17条 本会は、第3条の目的を達成するため研究委員会をおく。

第18条 研究委員会は、3名以上の会員の要請あるとき、役員の審議を経て設ける。

第19条 研究委員会には、会長の委嘱する委員長をおくものとし、その運営は別に定めるところによる。

(運営経費)

第20条 本会の運営に要する諸経費は、入会金、臨時会費、賛助金その他をもってあてる。

(規約の変更)

第21条 規約の変更は総会の決議を必要とする。

○本規約の経過

昭和29年6月19日設立総会制定

昭和30年5月14日一部改正

昭和33年9月17日一部改正

昭和39年12月25日一部改正審議

研究委員会運営要領

第1条 本会規約第19条に定める研究委員会の運営は、原則として本要領によるものとする。

第2条 研究委員会の研究活動は、委員長を中心として、自主的に行なうものとし、研究項目については、他の学会と競合しないように配慮するものとする。

第3条 研究委員会の設置を役員会に提案するときは研究事項の概要、予定される委員長ならびに委員の所属、氏名および参考となる事項等を記載した文書を提出するものとする。

第4条 研究委員会は、必要があれば、会員および会員外から臨時委員を委嘱することができる。臨時委員は会長が委嘱する。

第5条 研究委員会の研究項目の確定、細部構成の決定またはその変更を行なったときは、その都度会長に届け出るものとする。

第6条 研究委員会は、毎年1回以上その研究活動状況、成果等を総会、講演会または、印刷物等で会員に報告しなければならない。

第7条 研究委員会の運営に要する諸経費は、賛助金その他をもってあてるものとし、経理は原則として本部事務局が行なう。

第8条 研究委員会に対する賛助金は原則として本部に納入するものとし、その5%は本部の運営費に充当する。

第9条 研究委員会の成果を対外的に発表するときは本会ならびに研究委員会の名称、必要あればその構成委員の氏名等を明示するものとする。

第10条 本運営要領の変更は、役員会が行なう。
(昭和39年12月25日制定)

事務局在庫資料の紹介

希望者には適宜頒布します。

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| 1) 研究資料第18号 | PCグラウト注入施工指針 (36年4月改訂版) |
| 2) " 第19号 | プレストレストコンクリートの新技術……講演集 (37年3月) |
| 3) " 第20号 | ねじり棒鋼を用いた鉄筋コンクリートの設計・施工指針案 (37年7月) |
| 4) " 第21号 | 異形鉄筋のFYカブラ継手に関する実験 (40年8月) |
| 5) " 第22号 | 異形棒鋼を用いた鉄筋コンクリートの設計および施工指針 (40年12月) |
| 6) " 第23号 | 異形鉄筋使用上の問題点について (42年3月) |
| 7) " " | PC橋資料 (道内著名道路橋 223例設計図集) |

新会員の募集

入会希望者は別紙申込書(ハガキ)に記入のうえ入会金(終身会費)として金500円を本会へ納入されること。入会と同時に事務局に在庫の本会刊行資料を希望により無料でお送りする。但し送料を要します。

(本号文責:事務局主事 山本清助)

北海道土木技術会事務局

札幌市南1条西2丁目 勸銀ビル5階
土木学会北海道支部事務局内 電話 札幌(0122)25-7038
取引銀行・北海道銀行中央支店普通預金口座
振替貯金・小樽 4356

役員名簿

(S42年7月現在)

会長 高橋敏五郎 北海道建設業信用保証協社長
 副会長 伊福部宗夫 北海道学園大学教授
 " 古谷浩三 開発局土木試験所長
 幹事長 河野文弘 " " 土質研究室長
 幹事 江利川喜一 " " 河川研究室副
 (順不同) 林正道 " " 室長
 第2研究部長
 佐々木晴美 " " 土質研究室副
 室長
 星野亮 " " 地質研究室長
 村木義男 " " 応用理化学研
 究室長
 山野隆康 " " 特殊土壌開発
 研究室副室長
 西堀忠信 " " 構造研究室副
 室長
 武山広志 道路工業協取締役工務部長
 仲村力 日本高圧コンクリート協工務課
 長
 後藤誠也 日本橋梁協札幌営業所長
 林敏明 三井建設協支店長代理兼土木課
 長
 川上忠男 日本道路協北海道支店業務課長
 酒井賢一 北海道電力協土木部工事課設計
 係長
 紙谷卓二 道、土木部都市計画課主任技師
 鎌田哲夫 札幌市総務局オリンピック準備
 室課長職
 阿部洋七郎 北海道開発コンサルタント協橋
 梁課主任技師
 青木弘 " "
 佐藤幸男 日本道路公団、札幌道路工事事
 務所長
 北村幸治 開発局建設部道路建設課開発專
 門官
 小田代弘 " 河川工事課課長補
 佐
 小浜実 " 石狩川開発建設部豊平峽
 ダム建設事務所長
 藤田嘉夫 北大工学部教授
 土岐祥介 " 助教授
 菅原照雄 " 教授
 丹保憲仁 " 助教授
 五十嵐日出夫 " "
 神山桂一 " "
 芳村仁 " "
 渡辺昇 " 教授
 工藤和雄 道、土木部道路課技術吏員

本会顧問名簿 (五十音順)

(S42年7月現在)

安芸真孝 協地崎組副社長
 阿部与 北海道大学工学部長
 相川実道、土木部港湾課長
 赤井醇 札幌市水道局長
 板倉忠三 北海道大学工学部教授
 市瀬勲 開発局、石狩川開発建設部長
 小野修 " 建設部道路計画課長
 音羽敬三 " " 河川計画課長
 小野中道、室蘭土木現業所長
 小野早苗 三井建設協札幌支店長
 大橋康次 北海道電力協常務取締役
 大間春彦 開発局農業水産部水産課長
 小川譲二 富士セメント協顧問
 尾崎晃 北海道大学工学部教授
 岡田光夫 札幌市建設局土木部長
 川合肇 清水建設協北海道支店土木課長
 鎌田哲 開発局、小樽開発建設部長
 苅田延夫 旭川市建設部長
 岸力 北海道大学工学部教授
 北郷繁 " "
 栗林隆 開発局港湾部長
 黒田正輝 道、旭川土木現業所長
 黒地政美 札幌市建設局長
 今俊三 東海大学教養部長
 小山道義 開発局土木試験所第1研究部長
 小寺一阜 道、土木部道路課長
 小竹豊 国鉄、札幌工務局長
 古泉栄一 国鉄道支社調査役
 斎藤静脩 北海道開発コンサルタント協取締役会長
 坂口武 開発局港湾部港湾計画課長
 佐々木欣一 " 農業水産部開拓課長
 佐渡博夫 " 旭川開発建設部長
 佐藤拓次郎 開発局、土木試験所第3研究部長
 斎藤薫 岩田建設協専務取締役
 佐々木喬樹 伊藤組土建協常務取締役
 酒井忠明 北海道大学工学部教授
 境隆雄 室蘭工業大学教授
 沢田寛 札幌防衛施設局建設部長
 城塚孝雄 鹿島建設協札幌支店長
 白石勝夫 大成建設協札幌支店長
 勝二明 開発局札幌開発建設部篠津地域開発事務
 所長
 住吉勇三 開発局農業水産部長
 菅原敏夫 道、土木部砂防災害課長

田中 一郎 開発局港湾部港湾建設課長
鷹田 吉憲 " 室蘭開発建設部長
田中 彦敏 北海道ピー・エス・コンクリート㈱札幌
営業所長
田中 節次 鉄建建設㈱札幌支店長
横田 光彦 日本鉄道建設公団札幌支社長
高瀬 正 大成建設㈱理事
高木 陽一 新日本土木㈱札幌支店長
田野崎 罔夫 開発局農業水産部計画課長
田卷 春造 小樽市土木部指導技師長
竹井 清一 室蘭市水道部長
高内 友海 " 港湾部長
土屋 忠 日本舗道㈱札幌支店長
土谷 実 飛鳥建設㈱札幌駐在顧問
津田 賢次 北海道開発コンサルタント㈱取締役社長
寺島 重雄 北海道大学工学部教授
当銀 清一 札建工業㈱土木部長
長沼 典郷 ㈱大林組札幌支店長
中津海 慎二 札建工業㈱取締役社長
中田 勝一 萩原建設工業㈱札幌支店長
中村 稔 道, 土木部長

中村 良夫 開発局建設部河川工事課長
中村 謙平 北海道電力㈱土木部長
中村 和太吉 開発局建設部道路建設課長
能町 純雄 室蘭工業大学教授
羽鳥 光夫 道土木部都市計画課長
本間 四郎 " 河川課長
卷下 乙四郎 日本道路㈱北海道支店長
前口 正蔵 北海道電力㈱土木部次長
松木 憲司 室蘭工業大学教授
町田 利武 開発局建設部長
宮城 好弘 " 農業水産部土地改良課長
峯村 芳郎 札幌鉄道管理局施設部長
森 勝平 開発局札幌開発建設部長
山本 茂 北海道大学農学部教授
山岡 勲 北海道大学工学部教授
山田 外記 道, 小樽土木現業所長
遊佐 志治磨 北海道開発局長
横田 清 北海道機械開発㈱常務取締役
吉川 宥直 北海道軌道施設工業㈱社長
横道 英雄 北海道大学工学部教授

昭和42年7月25日印刷

昭和42年8月1日発行

北海道土木技術会

事務局 札幌市南1条西2丁目

勸銀ビル5階

電話 25~7038番

振替小樽 4356番

札幌市北3条東7丁目342番地

印刷者 山中キヨ

札幌市北3条東7丁目342番地

印刷所 合名会社 文栄堂印刷所

電話 ☎2711・☎5560・☎0851